

史跡広島城跡石垣等の保存管理について

史跡広島城跡の石垣、石塁及び土居（以下「石垣等」という。）については、史跡の本質的価値を構成する重要な要素として、現況を把握し、適切に保存管理する必要がある。

このため、令和5年度から石垣カルテの作成に取り組み、石垣等の形状、構築状況及び変状について計測・記録するとともに、過去の補修履歴等の整理を進めている。

今後は、これまでに蓄積した記録を基に石垣等の保存管理上の課題を整理し、保全対策の必要性及び優先度を評価するとともに、評価結果に応じて、経過観察、追加調査、応急措置等を検討する。

石垣等の保存管理は、史跡広島城跡全体で継続的に実施するものであり、第Ⅱ期整備の対象区域に限定せず取り組む。

1 石垣の保全対策に係る優先度評価

今年度末をめどに、石垣カルテ等による現況記録を基に、「（仮称）広島城跡石垣保全対策の優先度評価」（以下「優先度評価」という。）の素案を取りまとめ、来年度に石垣部会に諮った上で整備基本計画に反映する。

その評価に基づき、保全対策の優先度が高い石垣について順次調査、検討を行い、「（仮称）石垣暫定補修計画」の策定に取り組む。

2 優先度が高い箇所（候補）

現時点の石垣カルテ等による現況確認から、保全対策の優先度が高いと考えられる候補箇所を次に示す。取りまとめる優先度評価を踏まえ、来年度に暫定補修計画の策定に必要な調査を実施する予定としている。（資料4－1、4－2参照）

(1) 本丸下段・中御門周辺石垣

間詰石等の欠落が顕著にみられる。また、天端の樹木が伸長し、樹根による石垣への影響が懸念される。

(2) 本丸下段・裏御門周辺石垣

戦後の公園整備に際して築石の積み直しや間詰へのモルタル注入が行われたとみられ、現状ではモルタルの劣化がみられる。また、天端の樹木が伸長し、樹根による石垣への影響が懸念される。

3 石垣等の保存管理に係るスケジュール

区分	項目	実施時期				
		R8	R9	R10	R11	R12
維持管理のための調査	石垣の写真撮影、オルソ図の作成		■	■	■	■
	石垣カルテ作成等の現況記録作業		■	■	■	■
保全のための調査	（仮称）整備等対策優先度評価の取りまとめ	■				
	保全対策の優先度の高い石垣の調査・検討		■	■	■	■
	（仮称）石垣暫定補修計画の策定及び実施			■	■	■